

秋の彼岸によせて

平成二十五年九月 大乘寺 住職 岡 光俊

「思い込み」

皆さま、思い込みはありますか。

思い込みを辞書で調べると「深く信じ込むこと、固く心に決めること」とでています。

瞬間瞬間の思い込みからくる言動は目につくものですが、そのことが日常化、習慣化されると、習わしという表現に変わることがあります。また、同じ行動を多くのかたがすることによって正しいことと皆に認識されていくことがあります。

思いが強く先行して、行動が奇異に映ったとき、「思い込みが激しい」という言葉で「思い込む」という言葉の意味を最も解り易く表わしてくれます。

人は、思い込みにより、多くの物事や人を排除したり強要したり、喜んだり悲しんだりします。

自分は万能な人間と思い込んでいるかたもおられます。

人が「何故」と思ったり口にしたとき、自分の思いとは違う、想定外のことが起こったということです。

思い込んでいた自分の考えではない、別の考えがあることを知る瞬間です。

人は一日に何度「何故」を呟くことでしょうか。多くの人と接する機会がある人程、この「何故」の思いが多くなり、また、それは、自分の思い込みの多さに気づかせて頂けるときでもあります。

気づきの連鎖の始まりです。

思い込みは、本人は深く信じているので、自分の思いがほかのたと違うなど、思いも考えもしたことがないというものです。

ですから、善し悪しは別として、自分の思い込みに気づくことは、大きな心や考え方の成長に繋がるので、人としてなくてはならない機会です。

人が大きく影響を受ける思い込みの一つに数の力があります。最も民主的かつ平等に思える数の説得力です。

私がよく足を運ぶ地域では、女性の就業率が、非常に高い。結婚し子供を授かって一年以内に職場復帰が暗黙の了解なのです。生まれてすぐ、親の元を離れて保育所に預けられる子供が大多数です。

子供の二十年後、三十年後のためには三歳迄の母親の愛情がなによりも大切ですと常に伝えていますが、この地域ではこのような考えは間違いになるのです。

事実、出産後、家事、子育てに真剣に取り組み職場復帰しない若嫁に、舅、姑や親戚筋から陰口をいわれたり、地域のかたから非難の的になっていきます。若嫁は「働くことが第一」の思い込みの数の力です。

以前もこの場で、子育ては、母親が子供に育てて頂く最高の時期とお伝えしました。

毎日変化する子供に母親としてどのようにに対応し、学んでいくか、子供が三人いれば、性格、感性、運動能力等々違うので、母親は、三人の人間に育てて頂けると同じなのです。

母親にとっても子供にとっても、最も大切な三年間を別々に過ごすことによる親と子の心の成長の影響力は重大なものです。このこ

とに気づかない原因は、結果が二十年後、三十年後にでてくるからでしょう。

自分の思い込みにより、負の連鎖に、自らを負の世界へ導く可能性が高いことを意識して下さい。

自分だけでなく、家族や周りの方々を、苦しみの中に誘い入れていないか。

悲しみ苦しみが今、目の前にあるかた、自分は今迄、なにか思い込みをしてきたのではないかと。

秋の彼岸の長夜、お経を尺度に一度自分から少し離れ、お経を通して自分を見たとき、一つ気づくことにより、次々と思ひ込みに気づくこととなり、自分の考えの多くが、なんの根拠もない思ひ込みで、多くの人生の時間を費やしてきたことに気づかれるかたもおられるのではないでしょうか。

『彼岸によせて』は、佛縁ぶつえんあるお一人お一人が、静かにご自身の歩まれてきた生きかた、考えかたを、親の思いや、ご先祖さまがたの思いを心に深く置いて、正しく過ごしてきたかの確認の場になればと思います。